

【特別支援学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名	佐賀県立盲学校
1 前年度 評価結果の概要	前年度は『夢をはぐくみ、未来をひらく盲学校』～「ほめる」からはじめる。はじまる。そのために「知ろう」～を掲げ、以下の3つの重点項目を定めた。重点項目の達成に向け、それぞれの取組は年間を通して着実に実行できた。 ・自立と社会参加に向けた力の育成のために、保護者や関係機関と連携を取りながら、幼児児童生徒の実態に応じた支援・指導を行った。 ・専門性向上に向けた研究・研修の充実のために、職員研修等を通して専門性の向上に努めた。また、力を引き出す授業の実践を念頭に校内研究を進めた。 ・「目の支援センター ゆうあい」を中心に、関係諸機関とも連携しながら、弱視学級との連携や、地域に対する支援、啓発活動等を行い、センター的機能を周知することができた。

2 学校教育目標	視覚に障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援を行い、自立と社会参加及び心豊かな人格の形成を目指す。 － 明朗・友愛・自立－
----------	--

3 本年度の重点目標	『夢をはぐくみ、未来をひらく盲学校』～持続可能な盲学校になるためにできることをさがしていこう～ (1) 自立と社会参加に向けた力の育成(幼児児童生徒) (2) 専門性向上に向けた研究・研修の充実と力を引き出す授業の実践(教職員) (3) 視覚障害教育センター的機能の充実と周知(社会・地域)
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
● 学力の向上	○幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○「学力の定着が図られた」「自立活動や各教科等を合わせた指導における指導と評価が適切に行われた」と回答する教員・保護者80%以上	・個々の実態を的確に把握するとともに、学習内容及び方法を適切に設定し、学習評価を通して効果的な学力の向上を図る。 ・全国および県の学力・学習状況調査やSAGAテスト、単元テスト、点字テスト、珠算検定等各種検定等を通して個々の学力の把握に努める。 ・自立活動の指導内容及び方法、評価等を他の学部との連携を踏まえながら、適切に実施する。 ・各教科等を合わせた指導では、個々の実態に応じた適切な指導の在り方に留意するとともに、教科の視点を踏まえて計画、指導にあたる。	A	・80%以上の教員・保護者が「学力の定着が図られている」、「自立活動や各教科等を合わせた指導における指導と評価が適切に行われている」と回答した。通常の学級(準ずる教育課程)の授業時数については、標準時数を踏まえ、本校生徒の障害特性も考慮しながら検討する必要があるかもしれない。 ・各教科等を合わせた指導については、年度ごとの引継ぎを適切に行い、個々の生徒の教科の目標から内容を設定し、計画、指導、評価に至る流れを担当者が共有し、PDCAサイクルを確立していくことを全職員で確認する必要がある。	A	評価については、引き続きを含め、学部間の連結を気軽に行えるような雰囲気大切であると思う。幼児児童生徒の現在持っている力の説明を詳しく保護者に説明することが必要。	
● 心の教育	● 幼児児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者を尊重する心や社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「将来の自立と社会参加に向け、生きる力や豊かな心を身につけさせる指導が、発達段階に応じて適切に行われた」と回答する教員・保護者90%以上	・幼児児童生徒一人一人の夢や希望をふまえ、学校生活のあらゆる場面での適切な支援を行い、生きる力を育てる。 ・防犯、薬物、いじめに関する講話等、さまざまな角度から人権意識の向上に努める。 ・幼児期から特別活動や学校行事等への参加を通して望ましい人間関係を形成し、異年齢間での集団意識を高め、他者を尊重する心や社会性を養う。 ・体育祭や点字ブロック啓発活動、他校との交流などをおして、社会性や協調性を育てる。	A	・80%以上の教員・保護者が、将来の自立と社会参加に向け、生きる力や豊かな心を身につけさせる指導が、発達段階に応じて適切に行われたと回答した。 ・SNSの適切な使用の周知・薬物乱用防止教室、いじめに関する講話、がん教育講話や特別活動、行事等を通して、社会的自立に向けての心構え、自他の生命を尊重することについて学んだ。	A	特になし	生徒指導主事
	● いじめの早期発見、早期対応に向けた取り組みの充実	○「幼児児童生徒が安心して学ぶことができる環境作りに努め、一人一人の不安や悩みに寄り添いながら、いじめのない学校作りに取り組んでいる」と回答する教員・保護者90%以上	・学校生活アンケートを実施して一人一人の心の状態を把握し、安心して学べる環境づくりに努める。 ・教育相談体制を充実させる。 ・スクールカウンセラーによる講話と演習を通して自己解決能力を高める。	A	・90%以上の教員・保護者が、幼児児童生徒が安心して学ぶことができる環境作りに努め、一人一人の不安や悩みに寄り添いながら、いじめのない学校作りに取り組んでいると回答した。 ・11月に実施した学校生活アンケートで、嫌な思いをしたという児童生徒はいなかった。 ・学部と生活指導部が連携を取りながら対応できた。また、スクールカウンセラーとも連携し担任団と学部で組織的な支援ができた。	A	特になし	生徒指導主事

	<p>●◎幼児児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。</p>	<p>●「先生はあなたのようにとて認めてくれていると思う」と回答した幼児児童生徒80%以上</p> <p>●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした幼児児童生徒80%以上</p>	<p>・自分の役割を理解し、果たそうとする態度や意欲、コミュニケーションの方法等を身につけさせる。</p> <p>・自立心を培い、自主的・意欲的に自分らしく生きる力を育む。</p> <p>・幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた授業実践を行い、自己肯定感を高める。</p>	<p>B</p> <p>・80%以上の幼児児童生徒が「先生はあなたのようにとて認めてくれていると思う」と回答した。「将来の夢や目標を持っている」と回答した幼児児童生徒は75%にとどまっている。</p> <p>・身近に目標となるようなロールモデルの存在がなく、将来の自分の姿が思い描けなかったり、学習面の困難さや就職に対する不安を抱えて目標形成が上手くできなかつたりする状況があると思われる。学校と寄宿舎、家庭の連携の中で、できることを増やしなが自信をつけていくことや、自己理解を深める支援、体験的な学習、進路に関する情報提供等を通して、不安の軽減と前向きな目標設定につながるサポートが必要と考える。</p>	<p>B</p> <p>幼児児童生徒が学生の時期に「将来の夢や目標を持つ」ことは難しいと思う。「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした幼児児童生徒80%以上の設定が高すぎるのではないかと考える。</p>	<p>各学部主事</p>
--	--	--	--	---	---	--------------

<p>●健康・体づくり</p>	<p>●望ましい生活習慣の形成</p>	<p>○将来の自立と社会参加に向けた生活習慣の確立に努めている」と回答する教員・保護者90%以上</p>	<p>・「保健だより」を毎月発行し、基本的な生活習慣の形成に役立つ情報を発信する。 ・性教育講話やがん教育講話等を行い、自分の健康についての意識付けを行う。 ・長期休業前に生活指導と保健指導の両面から講話や資料の配布を行い、生活習慣形成への意識付けを行う。</p>	<p>A</p>	<p>・80%以上の教員・保護者が将来の自立と社会参加に向けた生活習慣の確立に努めていると回答した。 ・「健康観察簿」を通じて健康状態を把握し、毎日の健康チェックへの意識づけができた。 ・感染症対策としては、インフルエンザや新型コロナ等、換気や手指消毒などの啓発を行い予防対策に努めた。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>生徒指導主事</p>
<p>●地域支援</p>	<p>●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実</p>	<p>○「相談支援活動や啓発・広報、地域の見えにくさのある幼児児童生徒への有効な教育的支援が効果的に行われている」と回答する教員90%以上</p>	<p>・見え方に困難のある幼児・児童・生徒・成人の相談に応じ、適切に支援を行う。 ・地域や関係諸機関に対し、本校や視覚障害教育についての啓発・広報活動等を計画的に行う。 ・弱視学級や見えにくさのある幼児児童生徒の所属校等と連携し、ゆうあいnetや研修会を通じて定期的な情報提供等を行う。 ・巡回相談や市町乳幼児相談において、実態や状況に応じて適切な助言を行う。</p>	<p>A</p>	<p>・90%以上の教員が「相談支援活動や啓発・広報、地域の見えにくさのある幼児児童生徒への有効な教育的支援が効果的に行われている」と回答した。 ・夏季休業中に、県内全ての市町の役所や関係諸機関を管理職と共に訪問し、予定通り、計画的に啓発・広報活動を行うことができた。 ・4月に弱視学級担当者等研修会を行った。また、毎月ゆうあいnetを発行し、計画通りに定期的に視覚障害教育についての情報を発信することができた。 ・県内の各学校等の要望に応じて巡回相談に伺い、助言等を行った。また、継続支援が必要な場合も支援を行った。佐賀市と小城市の乳幼児健康相談等に毎月参加し、保健師と連携しながら相談等に応じた。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>相談支援部主任</p>
<p>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</p>	<p>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○月の時間外在校時間が45時間を超える職員の割合が3%未満 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上</p>	<p>・定時退勤日を設定し、計画的に業務を行う。 ・必要に応じて学校行事や各校務分掌等の業務内容を見直す。 ・休暇が取りやすい環境づくりに努める。特に長期休暇前については、意識して年休を取得してもらうように職員へ促す。</p>	<p>A</p>	<p>・下期において、月間の時間外在校時間が45時間を超えた職員の割合が3%未満であり、定時退勤推進日には、残業する者はほとんどいなかった。 ・年次休暇の取得状況については、1月時点で年次休暇付与日数が34日以上正規職員49名のうち、14日以上取得した職員は39名(79.6%)であった。また、次年度に向けた行事の精選を行い、幼児児童生徒の実態に応じた行事内容の検討を行った。次年度も引き続き、職員間の業務量や業務内容の偏りの有無を把握・見直すとともに、行事や会議の精選など、業務の効率化を図る必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>教頭事務長</p>

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
<p>○キャリア教育及び職業教育の充実</p>	<p>○卒業予定者の夢や希望を尊重した、ニーズに応じた進路指導の充実</p>	<p>○進路についての意見を十分に聞き、適切な指導がなされていると回答する職員、保護者が80%以上 ○進学および就職、障害福祉サービス利用等、卒業予定者全員の進路先確保</p>	<p>・進路希望に応じた、課題テストや模擬試験、補習等の実施、指導支援を行う。 ・就労や障害福祉サービス等、関係機関への視覚障害の理解啓発と新規進路開拓を行う。 ・進路講演会、進路情報などを通して、適切な勤労観や職業観を育み、将来の進路についての意識を高める。 ・担任、各学部主事等から進路に関する質問等を懇談後に聞き取りを行う。また、必要に応じて進路指導部が懇談へ参加したり職員へ説明したりする場を設ける。</p>	<p>B</p>	<p>・80%以上の職員、保護者が進路についての意見を十分に聞き、適切な指導がなされていると回答した。 ・進路希望に応じた内容の補習や模擬試験、実習、体験の実施を行い、進路実現に向けて意識を高めることができた。 ・卒業予定者、在校生の進路を見据え、障害者面接会への参加や校外での体験会を通し企業や行政への理解啓発を行うことができた。 ・研修会や講演会の実施、進路情報を発行することができた。 ・国家試験不合格時の進路先の確保について、継続して検討する必要がある。</p>	<p>B</p>	<p>特になし</p>	<p>進路指導主事</p>
<p>○校内研究・職員研修の充実</p>	<p>○校内研究・職員研修の充実</p>	<p>○「校内研究・職員研修により指導力が向上した」と回答する教員90%以上</p>	<p>・校内研究・職員研修を計画的に実施し、視覚障害教育の専門性の向上、授業実践指導力の向上を図る。 ・新転任者研修や校内スキルアップ研修、外部講師による授業参観指導等を実施するとともに、出張報告会を通して研修の成果を共有化し、視覚障害教育の指導力・専門性の向上を図る。 ・自立活動の個別の指導計画の作成の研修を行う。</p>	<p>A</p>	<p>新転任者向け研修会を年間12回実施し、そのうち4回は地域の学校向けの公開講座とした。また、スキルアップ研修4講座と外部講師による研修2回を行った。校内では授業参観週間を設け、互いの授業を見合い学び合う雰囲気が生まれ、授業改善につながった。研修により「指導力が向上した」と回答した職員は100%であった。校内研究では3年間の研究計画の最終年度として成果を整理し、各学部が『研究報告』を作成・共有した。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>研究研修部主任</p>

<p>○寄宿舎における生活指導</p>	<p>○寄宿舎における生活指導</p>	<p>○「寄宿舎生一人一人の実態に合わせ、自立に向けた支援指導が達成された」と回答する指導員・保護者90%以上</p>	<p>・寄宿舎生一人一人の実態把握を綿密に行い、ケース会や研究会を通して学校と連携し共通理解を図りながら、指導員全体で最も適切な支援を行う。 ・学会連絡会や担任・寄宿舎指導員との連絡会などを通して学校と寄宿舎が連携しながら児童・生徒の支援を行う。</p>	<p>A</p>	<p>・定期的な情報交換を生かし、高知盲とのオンライン交流、舎祭、クリスマス会、外出や棟活動など、寄宿舎で充実して過ごせる場を計画的に設定した。これらの行事を中心に、舎生一人一人の自立に向けた支援指導が行えるよう、職員間で共通理解を図った。その結果、「寄宿舎生の実態に応じた自立支援が達成された」と回答した寄宿舎指導員・保護者は90%以上であった。 ・学部や保護者とは、連絡帳や保護者懇談等を通して連携を深めることができた。また、舎内の掲示物等を充実させ、適切な情報発信にも務めた。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>寮務主任 主任寄宿舎指導員</p>
---------------------	---------------------	---	--	----------	--	----------	-------------	--------------------------

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

<p>5 総合評価・次年度への展望</p>	<p>今年度は「夢をはぐくみ、未来をひらく盲学校 ～持続可能な盲学校になるためにできることを探していこう～」をスローガンとして掲げ、3つの重点項目を設定した。重点項目の達成に向けた取組は、年間を通して着実に実施することができた。その結果、一部の項目はB評価となったものの、その他は高い評価を得ることができ、保護者や学校評議員からも肯定的な評価をいただいた。次年度は、評価の観点の見直しや成果指標の数値の適切な調整を行い、より良い学校運営につなげたい。今後も県内唯一の視覚特別支援学校として、保護者や学校評議員から寄せられた意見・提言を積極的に学校運営へ反映し、指導力の一層の向上に努めていく。 また、幼児児童生徒一人ひとりが安心して学べるよう、不安や悩みに寄り添う学校づくりを推進し、幼児児童生徒および保護者のニーズを的確に踏まえた学校運営に取り組んでいきたい。</p>
-----------------------	--